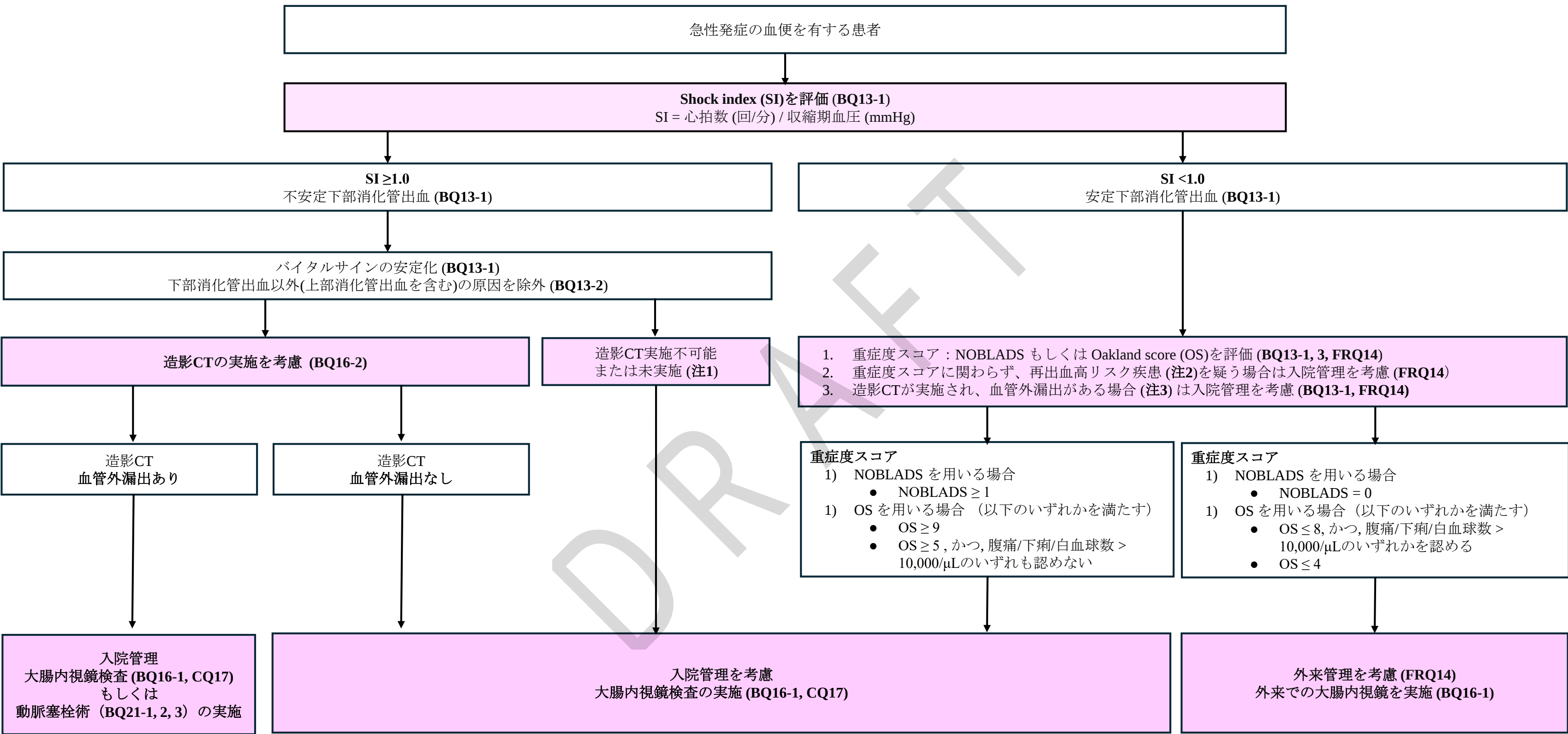




(注 1) 腎機能障害、造影剤アレルギーなど造影CTの実施が不可能であった症例、未実施症例、単純CTが当てはまる (BQ 16-2)。
(注 2) 再出血高リスク疾患には大腸憩室出血、小腸出血、直腸潰瘍がある (FRQ14)。
(注 3) 本邦では血便患者に対しSI < 1.0であってもCT検査が実施されることが多い。CTの結果、血管外漏出があった場合は入院管理が推奨される (BQ13-1, FRQ14)。